

令和6年度

県・地域企業との連携により

企業関係者の積極的な学習への

関わりを通して多様な学びに対応できる

指導プログラムの構築

事業報告

令和7年2月17日

豊野高等専修学校

事業概要

目的：・対面授業とメタバースを融合し、多様な学びの機会を提供する

①スクールゾーン（学習コミュニティ空間）

高等専修学校ならではの専門性の高い授業

②キャリアゾーン（企業との連携）

企業との連携をはかり、実証授業や職業体験を実施

③クリエイトゾーン（生徒自らが生み出すカリキュラムゾーン）

成果物の展示等による自己肯定感や学習意欲の向上

・県や行政機関と連携し、不登校の生徒や対人関係に不安がある生徒にメタバース空間を通して学びの機会を提供する。

初年度の方針：教師主導でシステムを構築し、その後生徒主体の運用へ移行

令和6年度の取り組み

○メタバース実施報告○

- ・高等課程 生活美術コースにおいて、アバター作成授業
- ・高等課程 生活美術コースにおいて、「DOOR」にてメタバース空間体験授業
- ・美術コース作品展示
とよせんアートの森 | DOOR 開け。次の世界
- ・いばら祭（校内文化祭）において、メタバース空間体験
令和6年10月26日（土）、27日（日）
内容：VRゴーグル、メタバース空間体験用ノートPCを設置し、本校生徒や、訪れた外部ゲストに生活美術コースの竹灯籠やLINEスタンプを設置したメタバース空間に誘導し、多様な学びを体験してもらった

とよせんアートの森 -総合入口-

https://door.ntt/grNfAS2?hub_invite_id=G3dMBu4



とよせんアートの森 -「竹灯籠・LINE スタンプ」デザイン展示室-

https://door.ntt/FjJ8Aff/?hub_invite_id=gZUkZn



とよせんアートの森 -「立体感のある平面構成と絵」デザイン展示室-

https://door.ntt/3ywxLNj?hub_invite_id=FbRFqj



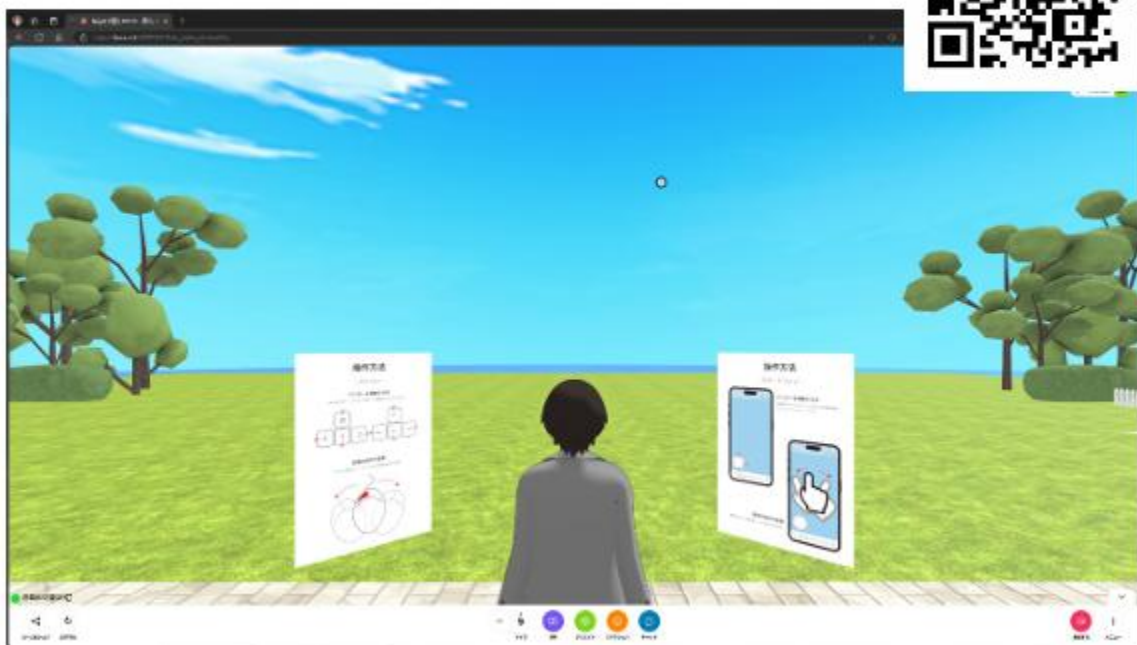
とよせんアートの森 -「金屏風」デザイン展示室-

https://door.ntt/mf4KbAq?hub_invite_id=dg22YwL



専用メタバース空間での待ち合わせ場所(メタバース相談会場)

https://door.ntt/vBZBYG2/?hub_invite_id=exaUFuf



いばら祭（学校祭） 展示の様子①





いばら祭（学校祭）展示の様子②

学校祭 参加者（作品制作生徒、メタバーズ体験者）の声 まとめ

- ①VR体験の魅力 ②ノートパソコンでの鑑賞 ③メタバーズ空間での展示
- ④デジタルアートの可能性 ⑤伝統文化と最新技術の融合
- ⑥参加者（作品制作生徒、メタバーズ体験者）の学びと進路への影響

本年の学校祭では、メタバーズ空間での展示によって、来場者に新しい体験を提供することができました。VRゴーグルを使用した没入型体験だけでなく、ノートパソコンでも楽しめる工夫がされており、多くの方に学校を知っていただく学校祭になりました。技術とアート、伝統文化の融合が評価されており、来年度もさらなる進化が期待されます。また、参加者がこの学校祭での経験を通じて自身の進路やキャリアについて深く考えるきっかけになり、不登校傾向にある生徒も作品を認められることで、自信をつけることができました。これが、大きな成果の一つでした。

○企業連携実施報告○

・企業実証授業

- 11月22日（金） 中野土建株式会社 エヌ・エス・ケイ株式会社
- 11月29日（金） 共和コーポレーション株式会社 長野市議会議員
- 12月13日（金） 株式会社平澤建設 戦略デザインラボ
- 12月20日（金） 本久ホールディングス株式会社
- 1月24日（金） 八十二銀行 木瓜建築

今後ご協力をいただけることをお約束している企業

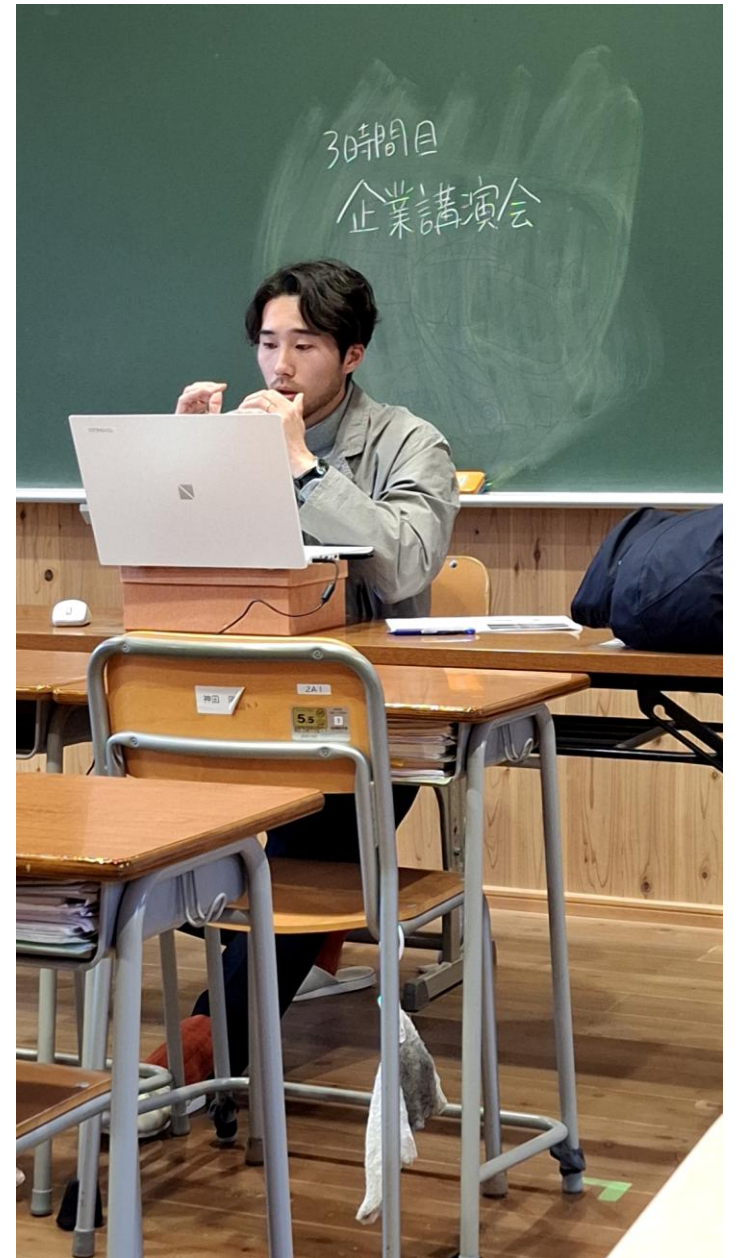
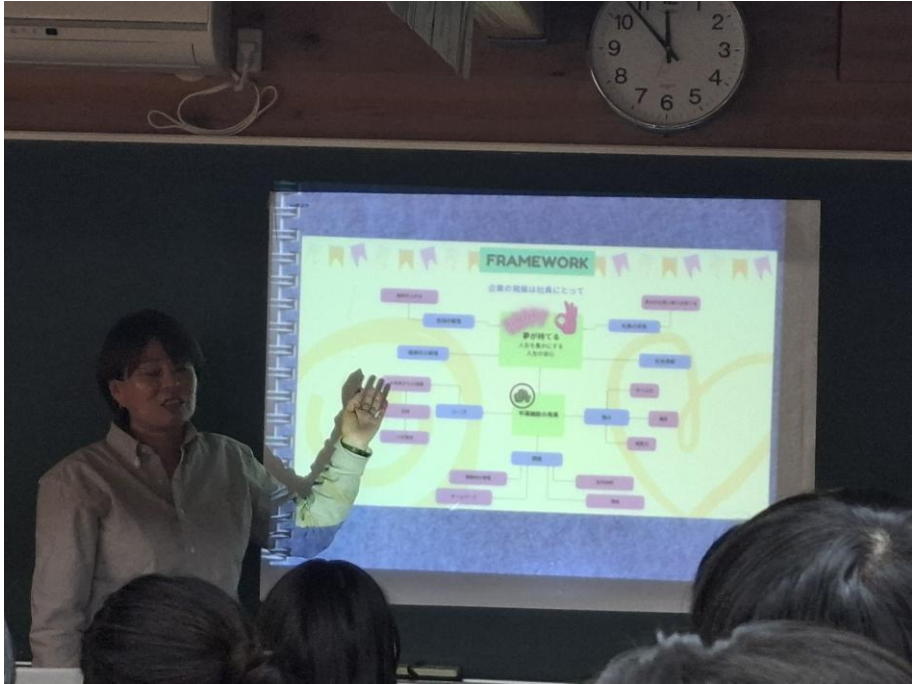
高木建設株式会社、ドリームモータースクール、株式会社黒船、春蘭の宿さかえや
ケアビレッジ銀の扇、市議会議員、株式会社富谷、着物のまるため

・企業アンケート

企業実証授業風景①



企業実証授業風景②



企業実証授業の生徒の声 まとめ

本授業では、さまざまな分野の専門家や企業の方から貴重なお話を伺うことができました。参加した生徒は、それぞれの経験や考え方に大きな影響を受け、将来の進路や働き方について深く考える機会となりました。生徒の声を大別すると以下ようになります。

- ①心に残った言葉と学び
- ②仕事への不安とモチベーション
- ③企業の取り組みと働く環境
- ④進路選択への影響

多くの生徒が将来の進路や働き方について深く考えるきっかけを得ることができました。講師の方々の言葉や実際の経験談を通じて、仕事への向き合い方や、失敗を恐れず行動することの大切さを学びました。また、企業の取り組みや働く環境の実態を知ることによって、今後のキャリアの参考になったと感じる生徒も多かったです。今回得た学びを生かし、それぞれが自分の未来を切り拓いていくヒントになってくれることを期待します。

学校認知度アンケート

質問	はい	いいえ
問1 専修学校という学校種をご存じですか	92%	8%
問2 専修学校には、「高等課程」と「専門課程」があることをご存じですか	42%	58%
問3 豊野高等専修学校をご存じですか	46%	54%
問4 豊野高等専修学校の高等課程にある各コースをご存じですか	25%	75%
問5 豊野高等専修学校の専門課程にある各コースをご存じですか	25%	75%

- 専修学校の認知度は高いが、課程の区分はあまり知られていない
→専修学校の高等課程と専門課程の違いに焦点を当てた広報活動が必要
- 豊野高等専修学校の認知度は約半数（地域やターゲットにおいて、ある程度の認知度はあるが過半数は超えていない）
→より広範囲での広い広報活動や、地域社会・学校との連携強化を行い、認知度上昇を目指す
- 豊野高等専修学校の各コースの認知度は低い
→コースごとの特色や強みを具体的に伝える情報発信を強化する
実際の在校生や卒業生によるPRを行い、具体的な学びや将来のイメージを伝える
進路指導担当の教員や中学生、保護者に向けた情報提供を強化する

令和7年度にむけて

①行政との連携強化

事業評価委員会に、次世代サポート課、県民の学び支援課、長野県教育会学びの改革支援課から参加があった。今後は、上記行政との連携を強化し、座談会等で不登校問題に関する意見交換をする

②メタバース空間の拡張

- ・今年度は美術コース在籍の生徒の作品展示でしたが、次年度は服飾コース、介護コースについてもメタバース空間を利用した展示、授業を構築する
- ・学習コミュニティ空間の作成と利用による効果の検証
- ・成果物の公開 公開による周囲からの反応の分析

③企業との連携

・産学連携：連携企業の方に協力をいただき、生徒が企画を持ち込みプレゼンをしていく。企業のPR動画作成、チラシの作成、商品のパッケージデザインをする等、企業との連携をより強化にしていく。また、メタバース空間上に企業ブースを作成し、生徒に企業を身近に感じてもらう機会を作っていきます。